

◎組合訪問 「日本機械工業労働組合」

# 現場百回、組合員の声を形に

**Q1** まず日本機械工業労働組合の成り立ちと現在の組合状況についてお聞きしたいと思います。

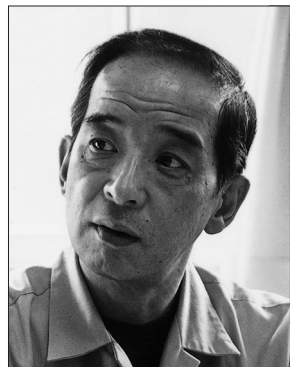
**樋口** 組合結成は、戦後1年目の1946年(昭和21年)1月22日のことで、来年1月には結成60周年を迎えます。終戦の翌年ですから、食料・衣料不足さらに急激なインフレという



品質第一のモットー建物

大変な混乱期でした。その中で労働組合の結成を成し遂げられた先輩方に心から感謝しています。今日の労働条件は一定程度世間水準に達していますが、結成当初は、年に数回の賃上げ要求をしていましたが、急激なインフレに追いつかず組合員は苦しい生活を余儀なくされていきました。業績悪化や人員整理など厳しい環境の下で、労働組合の活動はあまり活発でない状況が長く続きました。このような組合が活発に闘えるようになったきっかけは、結成15年目にして、全国金属労働組合という産業別組織の一員になったときからです。産別方針に基づき、61年春闘から賃上げ、労働時間短縮をはじめ、様々な労働条件の改善に活発に取り組むようになりました。その後、産別統合があり、89年に全国金属と全機金などが統合して金属機械となり、99年に金属機械とゼンキン連合が組織統一し、現在のJAMとなりましたが、産業別組織であるJAM、そしてJAM東京の一員として、さまざまな良い刺激を得ています。

●日本機械工業労働組合／  
執行委員長  
**樋口 和幸**  
ひぐち・かずゆき



日本機械労組の現在の組合員数は180名弱で、現在、9名の執行委員会体制で運営しています。1名の専従役員(書記長)と1名の女性書記で労組事務所を切り盛りしています。小さな工場なので、食堂のすぐ隣の組合事務所でタバコや日用品の販売を行っています。組合員は昼休みに食事が終わると気軽に組合事務所に立ち寄って、日用品を買ったり、組合役員と雑談したりして、組合事務所をみんな身近なものと感じています。

**Q2** 日本機械工業労働組合の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

**樋口** 一言で言うと、「組合員主体の労働組合」ということです。組合員は180名くらいで期間工やパートの方を入れても210名くらいですから、組合員一人ひとりの顔が見えるという利点があります。活動も上からの押しつけでなく、組合員の声を聞きながら組

# 日本機械工業労働組合

会員の声を反映した活動を大切にしています。定期大会をはじめ春闘、秋闘と年5回は全員大会を講堂で開きますが、自由に組合員が意見・要望を述べる、とても活発な大会となります。組合員が労働組合を非常に身近なものとして捉えています。定期大会に事情があつて欠席した組合員には、後日必ず書記長が欠席した組合員のところに行つて、1時間くらいかけて、一緒に議案書を共に読み合つて、理解を深めるようにしています。「全員参加」という言葉を行動を通して実践しています。

**Q3** 日本機械工業労働組合の主な活動の特徴について説明ください。

**樋口** 組合員と一緒にやる活動としては、季節ごとに4つのイベントを持っています。新年冬のボーリング大会、春のバーベキュー大会、夏の納涼祭です。納涼祭は、工場の中で家族も含めて、家族的な雰囲気と和気あいあいと行っています。こういう組合のイベントを通じて、組合員のコミュニケーションはとても活発でそれが仕事の面でもチームワークという面で発揮されています。

**Q4** 現在、特に重点を置いている活動についてお話しください。

**樋口** 特に重点を置いている活動は、組織強化のための職場討議です。具体的には、年に2回、就業後1時間半くらい、17の職場単位で執行委員が入つて、職場討議を行っています。職場討議では、活動方針の実践に向けての課題や、職場での様々な課題、問題点につ

いて、執行委員も組合員と一緒に論じ合う場になっています。そこで出された課題や問題点について、職場で解決できる問題については職場長に労働組合から改善を要望し、職場を超えた会社全体の問題については、会社側に要望し、会社の枠を超えた制度改善などの問題については、JAM東京を通じて要望するようにしています。この職場討議の充実こそ、労働組合の存在価値を高め、組織強化につながると思います。

**Q5** 現在、日本機械工業労働組合として抱えている課題についてお話しください。

**樋口** 私たちの一番の課題は、組合が結成されて60年間に築かれてきた労働条件と今の、そしてこれからの時代にあった労働条件との整合性をいかにとっていくかということです。具体的には、時代にあった賃金体系の確立と

退職金制度の整備などがこれからの課題です。組合員の仕事への誇りを高めつつ、働きがいを実感できるような評価制度や賃金体系の確立を今後検討していきます。

**Q6** 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることがあれば教えてください。あなたにとって労働組合の役割とは何だと考えますか？

**樋口** 私のモットーは一言で言うと、「現場百回」ということです。当たり前のことですが、労働組合の原点は現場にあるの思いで、とやかく言わずにまず現場に足を運んで組合員の顔を見て、声を聞くことを第一にこれまでやってきました。これからも何しろ現場に足を運んで、何が今問題なのか、組合員のためになることをただやるだけです。

私自身もつ委員長を8年くらいやっていますが、何故こんなに長く労働組合の活動をやっているのかと言われると、よくわからないのですが、たぶん労働組合が好きだからやっているのだと思います。今から10年くらい前に、私が書記長時代に、塗装工程の職場環境が悪かったので、組合の方から会社側にスト権を確立して、塗装工場の建て直しを要求して、それを実現したことがあります。現場で働く組合員の声をいかに吸い上げるか、そこが労働組合の役割だと思います。その意味で「現場百回」をこれからも愚直に実践していきたいと思っています。

聞き手：MFJJC組織総務局 渡辺



日本機械工業労組の組合事務所